

# 古代楽器「編鐘」と「編磬」を展示しました



編鐘

編磬

編鐘（へんしょう）と編磬（へんけい）という楽器をご存知でしょうか？どちらも中国の古代楽器です。古代と言っても中国ですから何百年前という単位ではありません。なんと春秋戦国時代、つまり紀元前 770 年から紀元前 221 年までの時代、今から 2500 年くらい前に現れた楽器なのです。もちろん展示品は現代の複製品です。

編鐘は、音高の異なる複数の金属製の鐘を順番に枠に吊るしたもので、ハンマーで叩いて鳴らします。吊るす鐘の数はいろいろで、少ないものでも 7 個、多いものだと数十個に及びます。権力の象徴として上流社会の儀式で使われたと言われていました。1978 年に中国湖北省の遺跡「曾侯乙墓（そうこういつぼ）」から出土した、紀元前 5 世紀のものと思われる編鐘は、65 個という超大型、豪華なもので、一番大きな鐘は高さが 150 cm ほどもあります。この編鐘は中国の国宝に指定されています。

編磬は、へんの字型の石を枠に順に吊るしたもので、編鐘と同じく石はすべて音高が異なります。曾侯乙墓からは編鐘とともに出土しており、それは 32 個の石でした。へんの字型の長い方を、ハンマーで叩いて鳴らします。これもまた上流階級が儀式で使ったものと

されています。

今回展示した編鐘と編磬は、前述の曾侯乙墓出土のものを縮小して作られたものですが、デザインはオリジナルに倣っていますので、古代の雰囲気味わえると思います。

この 2 つの楽器は 12 世紀には朝鮮半島に伝わりました。そして朝鮮王朝の霊廟である宗廟の祭礼楽や、雅楽で、現在でも使われています。楽器博物館にも韓国の編鐘と編磬が展示されていますので、古代中国のものとは比較できます。

編鐘も編磬も音階になっていますので、メロディが演奏できるわけですが、その音楽は決して速いものではなく非常にゆったりとしたものです。何秒か何十秒かに 1 回打ち鳴らすという感じです。娯楽の楽器ではなく、神聖で厳かな楽器であるのです。

中国で起こり、朝鮮半島にも伝わったこの 2 つの楽器は、なぜか日本には伝わりませんでした。編鐘は天平時代に日本に伝わったとも言われますが、実物は残っていませんし、何の痕跡も無いようです。当時の日本人の嗜好に合わなかったのか、はたまた、伝わるには大きすぎたり重すぎたりしたのか、謎ですね。

# ミュージアムサロン 大盛況!! 世界の楽器を紹介

今年もたくさんの方にミュージアムサロンに出演していただきました。浜松市内を中心に活動している団体、プロの演奏家、そして当館職員による演奏を館内にある天空ホールにてお楽しみいただきました。

7月後半から10月にかけて行われたミュージアムサロンをご紹介します。

## チャンゴとコムンゴ

チャンゴとコムンゴは韓国の伝統的な楽器です。チャンゴは日本の鼓(つづみ)を大きくしたような形をしていて、両面の皮を素手やバチを使って演奏します。コムンゴはお琴なのですが、日本のお琴よりも弦が少なく、お琴用の付け爪ではなく、鉛筆ほどの細さの棒で弦をはじいて鳴らします。チャンゴとコムンゴでは「散調」という伝統的な曲が演奏され、チャンゴの独奏では、即興で基本のリズムをアレンジしながら演奏していただきました。ほんのひと時ではありますが、韓国の風を感じるコンサートでした。



日時：平成26年7月27日(日)14:00、15:30(各30分)  
出演：リチャンソプ(チャンゴ)、パクソニョン(コムンゴ)  
入場者：133人

## アングルンをひこう!

アングルンは竹でできたインドネシアの楽器です。楽器を振って鳴らすのですが、1つの楽器で1つの音程しかだせませんので、吊るしたまま振ったり、1人で1~3つの楽器を持って、アンサンブルをします。今回は職員による簡単な演奏の後、会場のお客様にも楽器を配り、「きらきら星」や「ふるさと」といった曲をお客様と一緒に演奏しました。初めてアングルンに触れる方も多かったと思いますが、大人も子供も一生懸命に楽器を鳴らし、最後には上手に演奏することができました。



日時：7/20(日)、21(月)14:00(30分)  
8/14(木)、21(木)、24(日)、26(火)14:00、15:30(各30分)  
出演：当館職員(小池真梨、鈴木潤子、桐畑奈央、前田梨紗)  
入場者：延べ548人

## ブルーグラスバンド

8月最初のミュージアムサロンはアメリカ発祥の音楽「ブルーグラス」の演奏です。演奏はカントリーフロンティアの皆さん。楽器はバンジョー、ギター、マンドリン、ベース、ドブローです。「大きな古時計」など、世代を超えて知られている曲や、映画『俺たちに明日はない』の主題曲「フォギー・マウンテン・ブレイクダウン」というバンジョーの名曲が演奏され、明るく軽やかな音色が会場に広がりました。5人で歌を歌うときは1本のマイクの周りに集まるのですが、ホールの響きがとても良いのでマイク一本で充分心地よく演奏できるとおっしゃっていました。



日時：平成26年8月3日(日)14:00、15:30(各30分)  
出演：カントリーフロンティア 入場者：181人

## チェンバロ~イタリア・ポローニャ市より キアラ・カッターニさんを招いて

「浜松世界青少年音楽祭2014」が8/15(金)~17(日)に開催されました。その一環として当館のチェンバロを使用したミニコンサートを展示室で行いました。演奏はイタリアからお招きした、ピアノとチェンバロの演奏家であるキアラ・カッターニさんです。D.スカルラッティ作曲「ソナタ へ短調」等が演奏されました。優美な音色に魅了され、うっとりとし聞き入ってしまいました。今年の4月、浜松市はイタリアのポローニャ市と「音楽文化交流に関する覚書」を締結し、音楽文化友好都市となりました。今後も多くの演奏家と音楽文化の交流ができるといいですね。



日時：平成26年8月15日(金)15:30(30分)  
出演：キアラ・カッターニ 入場者：158人  
使用楽器：F.ブランシェ2世製作 1765年 パリ



## クラリネットアンサンブル

クラリネットアンサンブルを披露してくださったのは、1997年に浜松市と近郊の愛好家によって結成された浜松クラリネット・クワイアーの皆さんです。今回は総勢17名で演奏してくださいました。一般的に知られているクラリネットだけでなく、ソプラノ、アルト、バスなど様々な音域のクラリネットも加わり、全部で6種類のクラリネットが登場しました。同じ楽器のサイズ違いということで、音域が変わっても音色が似ているので、一緒に演奏すると一体感のある響きがします。「カンタベリーコラール」や「海の謝肉祭」、「浜松市歌」などが演奏され、クラリネットの柔らかい音色を楽しむことができました。



日 時：平成26年8月16日（土）14:00、15:30（各30分）  
出 演：浜松クラリネット・クワイアー 入場者：188人

## オカリナ

この日は音心（おとごころ）というユニットで、えんじろうさんのオカリナと亮子さんのピアノの演奏です。スコットランド民謡「ザ・ウォーター・イズ・ワイド」、エルガー作曲「愛の挨拶」や、えんじろうさんが作曲した「雨上がりのしずく」、「南国の鳥」などが披露されました。オカリナは陶器でできているので、割れやすく、持ち運びが大変です。いくつものオカリナを持ち替えながら演奏され、小さなものは明るくて可愛い音、大きなものは暖かい音がしました。演奏後にはお客様と談笑され、とても和やかな雰囲気のコサートとなりました。



日 時：平成26年8月17日（日）14:00、15:30（各30分）  
出 演：音心（えんじろう、亮子） 入場者：128人

## サクソフォンアンサンブル

8月の最後はサクソフォンの演奏で締めくくりました。浜松サクソフォンクラブは1991年に4名で始まったグループですが、現在では30名程が所属する大きな団体になりました。演奏は4重奏と総勢19名で演奏するラージアンサンブル。ラージアンサンブルではとても迫力のある演奏を披露してくださいました。L.ドリーブ作曲「バレエ組曲コッペリアより前奏曲とマズルカ、ワルツ、チャルダッシュ」などに加え、アンコールには東日本大震災復興支援曲である「Song for Japan」が演奏されました。



日 時：平成26年8月31日（日）14:00、15:30（各30分）  
出 演：浜松サクソフォンクラブ 入場者：132人

## 金管アンサンブル

9月のはじめは華やかな金管楽器のアンサンブルの演奏をハママツプラスアンサンブルの皆さんに演奏していただきました。ハママツプラスアンサンブルは2010年から浜松を中心に活動している団体です。トランペット、ホルン、トロンボーン、チューバなど、吹奏楽でおなじみの楽器がたくさん登場しました。今回はドラムも加わりとても豪華なアンサンブルでした。ガーシュウィン作曲「アイ・ゴット・リズム」、パーカー作曲「ニューヨークのロンドンっ子」、アンコールには成田為三作曲「浜辺の歌」等が演奏され、会場は明るい音色に包まれました。



日 時：平成26年9月7日（日）14:00、15:30（各30分）  
出 演：ハママツプラスアンサンブル 入場者：136人



日 時：平成 26 年 9 月 14 日 (日) 14:00、15:30 (各 30 分)  
出 演：萩野伊都子 (ヴィオラ・ダ・ガムバ)、梶原弘子さん (チェンバロ)  
桐畑奈央 (リコーダー/当館職員) 入場者：242 人

## 親指ピアノ

博物館ではおなじみのロビン・ロイドさんによる親指ピアノの演奏です。親指ピアノはアフリカの楽器でアフリカでは「カリンバ」、「サンザ」など、その呼び名は 100 以上あると言われていています。音階も楽譜もないので好きな音に合わせ、即興で演奏します。ロビンさんは「音楽は耳と心で生まれる。」と言って即興で何曲も演奏してくださいました。今回はアフリカの木琴「バラフォン」も紹介してくださいました。バラフォンでは夫婦喧嘩をしている様子を表現してください、言葉はなくても、音だけでこんなに表現できるのかと驚かれたお客様も多かったようです。



日 時：平成 26 年 10 月 4 日 (土) 11:15 (30 分)  
出 演：塚田聡、伴野涼介 入場者：130 人

## フルートアンサンブル

10 月最後は、浜松フルートクラブの皆さんによる演奏です。1 回目と 2 回目、全て違うプログラムで、とても聴きごたえがありました。1 回目はフルートとピアノの演奏で、フォーレ作曲「ファンタジー」や、アナと雪の女王でおなじみの「レット・イット・ゴー」などが演奏されました。2 回目は全て 4 重奏で、モーツァルト作曲「子守唄」、ベルトミュール作曲「猫」など、フルートの魅力を存分に楽しむことのできる内容でした。また、浜松フルートクラブ会長の伊藤誠一さんのトークも冴え渡り、ときおり会場が笑いに包まれることもありました。

## 古楽アンサンブルの楽しみ ～様々なリコーダー作品～

今回はしっかりと古楽アンサンブルの演奏をお楽しみいただきました。様々なリコーダー作品をテーマに、C.デュパール作曲「組曲 第 1 番より 序曲」、G.B.フォンタナ作曲「ソナタ 第 6 番 ハ長調」などが演奏され、J.ファン・エイク作曲「笛の楽園よりイギリスのナイチンゲール」では本当に鳥が鳴いているような音がしました。ルネサンス・リコーダーとバロック・リコーダーの違いや、大きさによってどんな音色がするのかといったお話もありました。学校の授業で使うリコーダーとはまた違う印象を受ける、素敵なコンサートとなりました。



日 時：平成 26 年 9 月 15 日 (月) 14:00、15:30 (各 30 分)  
出 演：ロビン・ロイド 入場者：151 人

## ナチュラルホルン

日本ホルン協会主催の「2014 ホルンフェスティバル in 浜松」の一環として、当館の天空ホールにてミニコンサートを開催しました。当館所蔵のナチュラルホルン 8 台を使用して「狩でウサギを射たことを知らせる合図」や J.S.バッハの「ブランデンブルク協奏曲 第 1 番」の冒頭などが演奏されました。ホルンは狩猟の際に獲物を見つけたり、しとめたりした時の合図として野外で使われていましたが、18 世紀頃からオーケストラに取り入れられるようになりました。それは、まさに狩や田園の風景を描写するときに使われていたのです。普段展示されていて音が聴けない楽器ですので、とても多くのお客様が駆けつけてくださいました。



日 時：平成 26 年 10 月 26 日 (日) 14:00、15:30 (各 30 分)  
出 演：浜松フルートクラブ 入場者：130 人



## ワークショップ「モンゴルの喉歌 ホーミー入門」



日 時：平成 26 年 9 月 21 日（日） 10:00～11:45  
会 場：アクトシティ研修センター  
講 師：福井則之 参加者：10 人

福井則之先生をお招きして、モンゴルの喉歌「ホーミー」のワークショップを開催しました。

ホーミーとは、モンゴルのアルタイ山脈あたりに伝わる歌唱法のことです。倍音という効果を使って、1人の歌い手が2つ以上の声を出すという不思議な歌い方です。ワークショップでは、馬頭琴の演奏を交えながら、初心者にもわかりやすく指導をして頂きました。

ホーミーの種類は通常 10 種類以上あると考えられますが、その中で基本となる「ショローン」、「ハラガー」、「ヒスクルー」の3つの発声方法を教わりました。「ショローン」は、喉を絞めて倍音をだす方法。「ハラガー」は、ガラガラという低い倍音をだす方法。「ヒスクルー」は、舌を巻き上げて高い倍音をだす方法です。まずは、「メェ～」というヤギの鳴きまねをすると上達するそうです。先生の普段お話している時の声と、ホーミーで歌っている時の声と、初めてホーミーを聴いた時はどこから声が出ていのか分からないくらい、部屋いっぱいに声が響き渡り、とても驚きました。

短時間でコツをつかんで発声できた方もいて、楽しく充実したワークショップとなりました。

## 講座「楽器の中の聖と俗」～太鼓が響くスリランカ②呪術師たちの仮面舞踊～



当館の名誉館長、大阪音楽大学名誉教授の西岡信雄先生による講座「楽器の中の聖と俗」を開催しました。今回は「太鼓が響くスリランカ②呪術師たちの仮面舞踊」がテーマです。まず、呪術とは何なのか、日本の呪術師について説明がありました。日本には青森県のイタコと沖縄県のノロしかないそうです。西岡先生は青森県のイタコを訪ね、イタコが口寄せ（死者の思いをこの世に伝える）を行う様子を撮影し、その映像を見せてくださいました。そして、今回のテーマであるスリランカの呪術についてです。病気治療には仮面をつけて踊る呪術が行われます。病状は「血の病気」、「食欲不振」、「呪いによる病」など 18 種類に分類され、病状によって仮面が使い分けられます。呪術は全て身内

の中で分担して行われます。仮面をつけて踊る人は大抵 1 人で、踊りに合わせて太鼓が叩かれます。また、村祭りでも呪術が行われ、何人かの若い呪術師が踊ります。呪術の時間は長いと 8 時間にもなるそうで、太鼓を叩く人は太鼓に穴が開き、手から血が出るほど叩き続けます。呪術師は徐々にトランス状態になり、それを間近で見ていた村人もトランス状態になるという映像が衝撃的でした。貴重な映像とお話して、講座終了後も受講者の方々から多くの質問が出るほど、興味深い講座となりました。

日 時：平成 26 年 10 月 20 日（月） 19:00～20:30  
会 場：楽器博物館展示室  
講 師：西岡信雄 受講者：15 人

## 学芸員実習 ～次世代の学芸員の育成～



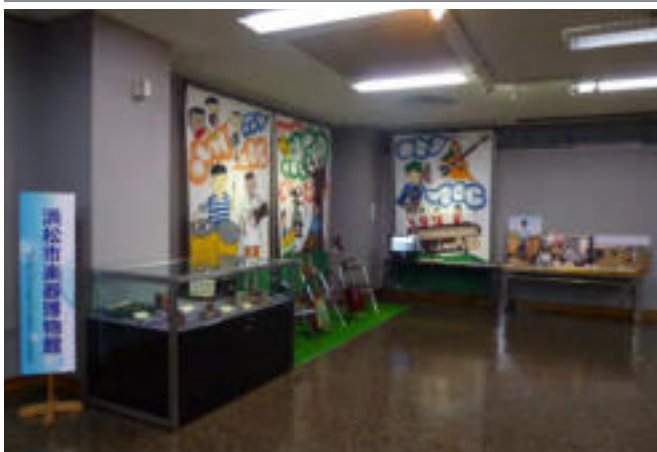
8月27日（水）から9月4日（木）まで学芸員実習を行いました。学芸員実習は、学芸員となる資格取得のために受講しなければならない科目の一つであり、学芸員の業務を博物館の現場で実習するものです。学芸員の業務は、資料の収集や保存、展示、資料の調査、催しの企画運営など多岐にわたります。本年は、全国各地の大学から10人の学生を受け入れました。当館の特徴的な事業活動や広報活動についての講義や、展示室での来館者対応、展示の企画などを行い、学芸員の業務の一部を体験しました。実習生は、大学での講義の実践としてはもちろんの事、この活動を通して博物館活動の重要性を体感していたようでした。このような、次世代の学芸員の育成も博物館の大切な使命の一つです。

## インターンシップ ～子供向けワークショップを開催～



インターンシップは、主に大学生が夏休みなどの長期休暇を利用して就業体験をし、将来の進路選択に活かすための制度です。当館では、博物館をはじめとした社会教育に関する文化施設に興味のある6人の学生を受け入れ、延べ42日間の実習を行いました。展示室では、来館者の対応、ミニコンサートのアシスタント、ワークショップを行いました。ワークショップはストローで笛をつくるという子供向けのものです。夏休み期間ということで、家族で来館されるお客様も多く、たくさんの方に参加していただきました。その他にも、広報の企画立案など学生が主体的に考える活動もしました。このような活動を通して、文化に携わる仕事をを目指す学生に、具体的な今後の目標をもってもらうことができれば嬉しく思います。

## 教員のための博物館の日 in 浜松～博物館活用講座～



浜松市博物館で博物館の存在や活用法を先生方に知っていただく「教員のための博物館の日2014」が開催され、当館と、市内の科学館、美術館などが参加しました。当館は「モンゴルの人々と楽器」をテーマにし、モンゴルの楽器の展示や体験コーナー、映像・資料閲覧コーナーを設置しました。「教員のための楽器博物館活用ガイドブック」も配布しました。また、馬頭琴奏者の福井則之さんによる馬頭琴やホーミーの演奏も楽しんでいただきました。

小学校2年生の国語の授業では、モンゴルの馬頭琴を題材にした「スーホの白い馬」を学びます。楽器博物館では、本物の馬頭琴を見たり触ったりできますし、モンゴルに住む人々の生活を映像資料を通して学ぶことができます。

学校に博物館をもっと活用してもらえるよう、このような活動を今後も行っていきたいと思います。

日時：平成26年9月20日（土） 13:30～16:00  
会場：浜松市博物館  
来館者：128人（内教員：12人）



# 博物館の国際組織～CIMCIM 2014 年次会議～



ストックホルム大学研究員の発表  
(ストックホルムのニードル楽器博物館)

世界中の博物館（美術館も含む）で構成される組織に「世界博物館会議 International Council of Museums (ICOM イコム)」というのがあります。本部はパリ。パリには、世界遺産でよく知られるユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の本部もあります。イコムは発足当初は国連の一機関でしたが、今では独立しています。イコムは博物館の分野ごとに様々な国際委員会があります。楽器博物館の国際委員会 Comité International pour les Musées et Collections d'Instruments de Musique もあり、頭文字をとって CIMCIM (シムシム) と呼ばれます。当館もメンバーです。

去る 8 月 24 日 (日) から 31 (日) まで、シムシムの 2014 年年次会議が北欧で開催され、ストックホルム、トゥルク、コペンハーゲン、トロンハイム、パリ、ロンドン、ベルリン、ミュンヘン、ニュルンベルク、エジンバラ、ロンドン、アムステルダム、ジュネーヴ、ニューヨーク、ボストン、フェニックス、アゼルバイジャン、ブエノスアイレスなどの楽器博物館や美術館の楽器部門の研究者ら 80 余人が集まり、連日活発な発表と討論が行われました。楽器博物館からは館長が出席し、20 年間の活動を発表しました。

今年のテーマは、①歴史的コレクターとコレクション、②21 世紀始めにおける楽器のコレクション、③牽引者・教育者としての博物館、④博物館所蔵品の録音

と音資料の収集の 4 つでした。当館は 31 日に④のテーマで CD 制作やコンサート、民俗芸能の録音録画活動について発表しました。

ユネスコが世界無形遺産の登録を始めてから、目に見えない文化遺産への認識が深まってきていますが、音という無形遺産をいかに記録し収集するかが、ヨーロッパでも真剣に考えられています。博物館の貴重な古楽器を修復し演奏することには、当然楽器の摩耗というリスクが伴うのですが、それをどのようにして克服していくか、また社会貢献してくかを、特に北欧の博物館や若い学芸員は考えているようでした。当館の CD 制作の取り組みは、その質と量において圧倒的な高さを誇っているようで、参加者からは称賛の声が挙がりました。



ポピュラー音楽の展示には 60 年代アメリカのオープンカーも  
(ノルウェー国立ロックハイム博物館)

その他、近年の動向としては、21 世紀になった今、楽器博物館が収集すべき楽器は何か、古いピアノはまだ収集すべきか、19 世紀に発明されたハーブ・リュートのような非伝統的楽器は如何に扱うべきか、音楽史のみならず社会史・文化史的な観点から楽器や音楽を位置付ける必要があるのではないかと、ポピュラー音楽や電子・電気楽器は重要であり展示も必要ではないかと、等の発表がありました。デンマークやノルウェーでは国立のロック・ポピュラー音楽の博物館が開設されましたし、ミュンヘンでは電子楽器の展示を計画していますし、ロンドンでは子供から大人までが楽しめるような展示のリニューアルを計画しているそうです。当館ではすでに電子楽器の展示もしていますから、浜松は世界の楽器博物館の最先端を行っているのかもしれない。

なお、10 月 2 日 (木) 18 時から、楽器博物館友の会の集いで、この CIMCIM 会議の内容について、館長からスライドを使いながら報告が行われました。



浜松市楽器博物館の発表  
(トゥルク市にあるノルウェー国立リングヴェ音楽博物館)

## 資料の燻蒸を行いました



当館では、新しく受け入れをした資料に対して毎年一回、燻蒸(くんじょう)を行っています。木や竹、紙などの素材や接着剤などを食べる虫を放置しておくことで資料が破損してしまいます。そのため、博物館資料用の特別なガスを用いて資料を燻蒸して、資料についている虫や虫の卵を駆除します。燻蒸で使うガスは、人体に影響のあるものですし、また作業によって資料を痛めてはならないので、文化財燻蒸を専門に扱う業者が作業をします。今年の作業は、9月24日(水)の館内整理日に行いました。前日に用意した資料を、作業員が手際よくビニールで覆いガスを入れて燻蒸しました。燻蒸を無事に終えた資料は、展示室や収蔵庫で大切に保管されます。博物館の大切な使命の一つとして、貴重な資料を次世代に残し伝えていく「資料の保存」があります。そのために、破損や劣化などから博物館資料を守り、未永く資料が良い状態で保存できるように、博物館は日々活動をしています。

## 博物館日誌

- 9/7 (日) ミュージアムサロン「金管アンサンブル」  
14:00、15:30 天空ホール  
出演：ハママツプラスアンサンブル  
入場者：136人
- 9/9 (火) ～ 9/11 (木) 移動楽器博物館  
浜松市立中川小学校
- 9/14 (日) ミュージアムサロン  
「古楽アンサンブルの楽しみ～様々なリコーダー作品～」  
14:00、15:30 天空ホール  
出演：梶原弘子、萩野伊都子、当館職員(桐畑奈央)  
入場者：242人
- 9/15 (月) ミュージアムサロン「親指ピアノ」  
14:00、15:30 天空ホール  
出演：ロビン・ロイド 入場者：151人
- 9/20 (土) 教員のための博物館の日 in 浜松～博物館活用講座～  
13:30～16:00 浜松市博物館  
来館者：128人(内教員：12人)
- 9/21 (日) ワークショップ「モンゴルの喉歌ホーミー入門」  
10:00 研修交流センター  
講師：福井則之 参加者：10人
- 9/29 (月) ～ 10/3 (金) 移動楽器博物館  
浜松市立泉小学校
- 10/2 (木) 楽器博物館友の会「海外の楽器博物館事情」  
18:00 天空ホール 参加者：21人
- 10/4 (土) ミュージアムサロン  
「ナチュラルホルン」(日本ホルン協会主催)  
11:15 天空ホール 出演：塚田聡、伴野涼介  
入場者：130人
- 10/20 (月) 講座「楽器の中の聖と俗」(全4回)  
「太鼓が響くスリランカ② 呪術師たちの仮面舞踊」  
19:00 展示室 講師：西岡信雄  
受講者：15人
- 10/26 (日) ミュージアムサロン「フルートアンサンブル」  
14:00、15:30 天空ホール  
出演：浜松フルートクラブ 入場者：130人

## これからの催し物

- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説  
※催し物により変更もあります
- ギャラリートーク 毎日数回  
展示品の解説を行います
- イブニングサロンコンサート  
「国際古楽コンクール<山梨>2014 入賞者コンサート  
チェンバロに酔いしれる」  
11/1 (土) 18:30 天空ホール 出演：中川岳  
「ライアーの響きに包まれる～プラハからの贈り物～」  
11/8 (土) 18:00 天空ホール  
出演：ヤン・ブラウンシュタイン  
「ガムラン・アンクルン～バリのもうひとつのガムラン～」  
11/29 (土) 18:00 天空ホール  
出演：梅田英春、  
静岡文化芸術大学バリ・ガムラングループ  
「スアラ・チャンダ」  
「愛する人を、想う夜～クリスマス・ジャズ～」  
12/10 (水) 19:00 天空ホール  
出演：鈴木麻美、藤森潤一、鈴木辰美、星合厚  
「ビルマの竖琴～サウン・ガウ～」  
1/17 (土) 18:30 天空ホール 出演：スザザほか
- 講座「楽器の中の聖と俗」(全4回)  
11/10 (月) 「ラッパの古今① 東洋編」  
11/17 (月) 「ラッパの古今① 西洋編」  
12/1 (月) 「太鼓が響くスリランカ①  
夜祭ペラヘラの大行列」  
講師：西岡信雄 いずれも 19:00～20:30 展示室
- ミュージアムサロン 14:00&15:30 天空ホール  
11/2 (日) 「アイリッシュホイッスルと北欧の笛」  
出演：hatao、上原奈未  
11/23 (日) 「箏」  
出演：島津成悠、島津成香、伊藤悠世、伊藤章子  
12/13 (土)、14 (日) 14:00のみ  
「フルート2重奏によるクリスマスコンサート」  
出演：当館職員(小池真梨、前田梨紗)

浜松市楽器博物館だより  
平成26年11月1日発行 No.93・94  
編集 浜松市楽器博物館  
〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1  
TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129  
E-MAIL wakuwaku@gakkihaku.jp  
URL http://www.gakkihaku.jp/